

## 2 中高連携英語力向上 第2年次の歩み

### (1) 岐阜市立加納中学校の実践

#### <授業実践>

##### ①授業実践に向けての構え

『確かな英語力を身に付け、豊かにコミュニケーションができる力を培う指導』を実践主題として、基礎・基本の定着を図り、その上で個性を発揮しあって豊かにコミュニケーションできる生徒の姿を目指した。そのために次の3点を重点とした。

◇コミュニケーションを図る活動を工夫し、基礎・基本の定着から、さらに発展的な内容にまで応用できる活動にする。(活動の必然性を含む)

◇指導と評価の一体化を図り、付きたい力(ねらい)を明確にして、具体的な指導の中でその実現を図るような指導方法を工夫する(ペア・グループ活動の工夫)。スモールステップを意識し、生徒一人一人が確実に本時目指す姿を実現することができるような援助をする。

◇英検やE-mailの取組を選択英語に取り入れる。また、All English Dayの実施や学習室の充実など学習環境の整備を進める。

##### ②第1回授業交流研究会

【日時】 平成16年6月7日(月)

##### 【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 2 Unit 2 “Yumi Goes Abroad”
- ・授業学校・学級 岐阜市立加納中学校 2年4組
- ・主な授業内容

授業のねらい 岐阜の名所を紹介する際、何について話すのかを示し、そのあとで大きさや呼び方、古さなどの情報を加えた構成にすると伝わりやすいことが分かり、5文以上のまとまりのある英文で説明することができる。

##### □基礎・基本の定着を図る指導

「名所、大きさ、呼び方、古さ」の表現の仕方につまずいている生徒に対しては、①教師のモデル紹介文を黒板に位置付ける②単語カードを用意するといった手立てをもち、レディネステストによって把握した生徒一人一人の実態に応じて支援できるようにした。

##### □身に付けた表現を運用する場の工夫

「名所、大きさ、呼び方、古さ」に由来や特徴などを加えて紹介したい生徒に対しては、①由来や特徴などの情報を与える②由来や特徴の表現例をヒントプリントとして用意するといった手立てをもち、指導に当たった。

##### 【授業研究会】

(高等学校より)

- ・言語活動におけるABコースやヒントプリントなど事前の準備のおかげで、生徒の活動が充実していた。
- ・スモールステップの設定により、生徒の集中力が持続できていた。途中でALTのモデル提示を入れたことで、生徒の聞く意識も高まった。
- ・ペア活動や教え合い、辞書を使って表現方法を調べる姿など意欲的であった。
- ・Warm-upでも生徒が鍛えられていると感じた。もっと自由に表現させてもよかったのではないか。Oralでは複数形や時制の間違いがあっても通じていくが、正しい英語表現の力を付けるためには書かれたものについて事後指導することが必要で、特に自己評価でCを付けた者に対するフォローが必要である。

(考察)

- ・本文の読み取りの目的を終末での表現活動のための方法を知ることとして授業を行うことで、ほとんどの生徒が3文以上の英文を使って、岐阜の名所の説明をすることができた。しかし、その反面、丁寧なステップを設けての内容理解ができなかった。音読練習等を行うなど、教科書をより大切に扱うことで、生徒の口から自然に英語が発話されるようにしたい。
- ・岐阜の名所については、本時初めて導入された情報であったため、即時性が求められる活動であった。ペア練習を位置付けることで、表現方法の定着を図ったが、ペアによっては相互援助がうまく行われなかったところもあった。個別の援助のためのより綿密な計画と、発展的な活動まで行き着くためのスモールステップが必要である。

### ③第2回授業交流研究会

【日時】 平成16年10月15日(金)

【公開授業】

- ・単元名 New Horizon English Course 2 Unit 5 “A Park or a Parking Area?”
- ・授業学校・学級 岐阜市立加納中学校 2年2組
- ・主な授業内容

授業のねらい 公園の駐輪場化の問題に対して自分の意見を伝えるために、記事の内容を大まかに読み取り、I'm for ~/I'm against ~.を使って、自分の立場と1文の理由を付け加えて主張することができる。

□基礎・基本の定着を図る指導

教科書題材の要点を読み取り内容に対する自分の意見を持ち、既習の英語を駆使して自分の思いを「結論→理由」というまとまりで表現する力を育てたいと考えた。そのために、市が駐輪場をつくることを決定した理由とそれに対する市民の思いを読み取り、それをもとに I'm for ~/I'm against ~.を使って自分の立場を明らかにし、その理由を既習の英語を使って1文で付け加えることで主張する力を育てることができるようにした。

□個性の伸長を図る指導

レディネステストの結果、生徒たちは「話題に対する自分の意見を持ち、理由を明らかにして相互理解を図りたい」と願い、さらに「if節, that節, when節, because節などの表現を正しく活用したい」「様々な理由を適切な英語で表現したり、英文の組み立てを考えたりして自分の思いを伝えたい」といった願いをもっていることが分かった。そこで、そういった生徒には「Firstly, Secondly...」を用いて、順序立てて理由を述べることを指導する。

【授業研究会】

(高等学校より)

- ・4技能が凝縮されており、活動のバランスが取れていた。包み込むようなあたたかい雰囲気の中で生徒たちが積極的に英語を使っていた。
- ・生徒が自然と活動に取り組めるように補助教材が周到に用意されている点に感心した。生徒は生き生きと活動していたが、全体の前での発表の時には生徒の声が小さくて聞き取りにくかった。人に伝えることの大切さ、喜びを大切にしたい。
- ・教科書が重視されており、無駄な時間のない中身の濃い授業であった。基礎・基本を確実に身に付けさせるためのケアがなされていた。上位層を伸ばすためのヒントカードがあってもよいのではないか。

- ・中学校には学力差があるが、どの生徒も意欲・関心・態度の点でよさがあった。この点は高校に入っても伸ばしていかなければならない。

(考察)

- ・教科書内容の読み取りから自己表現につなげていく指導を「読み取りの視点」→「十分な音読」→「教科書に自分の考えのもとがあることに気付かせる」と細かいステップを踏み、丁寧に行うことができた。その結果、誰もが「自分の意見に1文の理由を付け加えて」話そうとする姿につながった。
- ・コースやレベル選択が自由にでき、必要に応じてヒントカードを使用できることが生徒に安心感を与えた。
- ・指導の重点を明らかにする。本時の場合、「自分の意見に1文の理由を付け加える」ことに力点を絞り、「紙を見ないで話す」ことまで要求することは生徒にとって厳しいものではなかったか。あれもこれも詰め込み過ぎないようにしたい。

### <グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

#### ケンブリッジ英検ヤングラーナーズ受検

【日時】 平成16年9月10日(金)

【受験人数】 スターターズ 38名 ムーバーズ 36名

今回は、2・3年生各1学級の全生徒による受験を行った。どのテストについても平均すると60%を超える正答率であった。特に、スターターズのリスニングの正答率は70%以上であり、音声を重視した授業の成果が出てきているといえる。

問題別では、スターターズ、ムーバーズともに短文を読んで理解したり、短文を聞いて内容と一致する場面を想像したりする力が付いていると言える。一方、長文を読み取って内容を理解したり、単語のつづりを正しく書いたりする力が弱いことが分かる。この結果を受けて、文章の概要やおおまかな内容を把握する活動や、英文の和訳をすることよりも相手の意向を理解できるような指導を心がけた。授業では、音声を重視しながらも、書く活動を必ず取り入れるなどの改善に努めた。

#### 《正答率の高かった問題》

スターターズ	ムーバーズ
《Reading & Writing》 ・短文を読んで単語の意味を理解する。 ・現在進行形を用いて、単語・数・物の位置関係を理解する。 《Listening》 ・絵についての話を聞き、3枚の絵の中から話に合うものを選ぶ。 ・絵と会話によって単語の意味を正しく把握する。	《Reading & Writing》 ・短文を読んで文と一致する絵を選ぶ。 ・与えられた会話文の流れにそって、正しい応答を選ぶ。 《Listening》 ・先週のできごとについて聞き取り、与えられた絵に曜日を書く。 ・絵についての話を聞き、3枚の絵の中から話に合うものを選ぶ。

《正答率の低かった問題》

スターターズ	ムーバーズ
<p>《Reading &amp; Writing》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた文章の空所に、単語を書き入れる。</li> <li>・絵についての問題文に答える。</li> </ul> <p>《Listening》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語を聞いて絵と結び付ける。</li> </ul>	<p>《Reading &amp; Writing》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた文章の空所に、単語を書き入れる。</li> </ul> <p>《Listening》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話者が自分のことについて話している英文を聞いて空欄に単語を入れる。</li> <li>・会話に沿って絵に色をぬったり書きこんだりする。</li> </ul>

スピーキングテストの際に、ほとんどの生徒が緊張しながら面接官との対話をしたが、受検後には「自分の英語が通じた」という喜びや自信をもつことができた生徒が多くいた。そうした生徒の中には、授業に対して以前にも増して意欲を見せたり、他の検定にも挑戦しようとする者も増えてきた。

<学習環境の充実>

①英語学習室の環境整備

「週刊ST」を購入して英語学習室に掲示・陳列し、生徒が好きなきに読むことができるようにした。また、生徒玄関に「週刊ST」を活用した掲示物を作り、生徒の関心を高めた。選択の授業では、新聞記事の読み取りをもとに簡単なコミュニケーション活動をおこなったり、記事の要約文を作ったりして内容を理解し、生徒の読む力や意欲を高めることもできた。

また、語彙を増やしたり、英語検定の練習をしたりするためのコンピュータソフト、日常使われるコミュニケーションの場面をあらわしたビデオソフト、リスニングのトレーニング用のCDソフトを充実させ、授業中や休み時間に生徒が活用できるようにした。

今年度購入した教材	
・ 週刊ST 2部	「ジャパントイムズ」
・ 英語図書	「ロミオとジュリエット」「イソップ物語」「ドンキホーテ」 「宝島」「アンクルトムの小屋」「黒猫」 「ロビンフッド」「ジャンヌダルク」



② All English Day の実施

- 1 ねらい 一日を通して英語以外の授業を英語で行うことによって、生徒が英語に触れ積極的に英語の運用を図ろうとする態度を育てる。

- 2 期日 平成16年 7月14日(水) 第1校時～第4校時  
平成16年12月14日(火) 第1校時～第4校時
- 3 講師 岐阜大学留学生・インドネシア出身  
岐阜大学留学生・ミャンマー出身  
岐阜大学留学生・ケニア出身  
岐阜大学留学生・インド出身

#### 4 内容

<p>社会</p> <p>(ねらい) インド・インドネシアの地理や文化について学習することを通して、異文化理解を深める。</p> <p>(学習内容) インド・インドネシアの地理(地形・天候・文化等)について学習する。クイズに答えることを通して生徒は白地図に学んだ内容を記入していく。</p>
<p>数学</p> <p>(ねらい) 分数や小数など数式の学習を英語で行うことを通して、英語を通しての表現・理解の技能を高める。</p> <p>(学習内容) 正の数・負の数や分数・小数の四則計算、方程式の問題を解く。英語での出題を理解し、英語を使って解き方を説明する。</p>
<p>理科</p> <p>(ねらい) 電気の学習を英語で行うことを通して、英語での実践的な表現・理解の技能を高める。</p> <p>(学習内容) モーターの製作を通して、モーターを速く回すためには、電流を強くしたり、コイルの巻き数を増やしたりすることを見付け出す。作り方の説明や、指示のやり取りを英語で行う。</p>
<p>音楽</p> <p>(ねらい) 英語の歌を歌ったり、多様なジャンルの音楽を聴いたりすることを通して、英語表現やコミュニケーションの楽しさを実感する。</p> <p>(学習内容) 同じ曲で、英語や日本語で歌われているものを取り上げ、日本語・英語の両方で歌い比べる。(きらきら星・赤い河の谷間 など)</p>
<p>体育</p> <p>(ねらい) インドネシアの国のスポーツや遊びの紹介と活動を通して、外国人講師や生徒同士のコミュニケーションを図る。</p> <p>(学習内容) インドネシアで行われている、ボールを使ったゲームを行う。ルールの説明やゲーム中の言葉のやり取りを英語で行う。</p>
<p>英語</p> <p>(ねらい) 外国人講師とのティームティーチングでの授業によって、実践的な言語の活用方法を効率よく学習できるようにする。</p> <p>(学習内容) 日本と外国との違いを話題にすることで、比較級・最上級の導入を行う。その後、学んだ表現を活用して言語活動を行う。</p>



数学の自己評価より

①加法を英語で行うことができた。

- 十分 . . . 87. 5%
- まあまあ . . . 8. 4%
- 不十分 . . . 4. 0%

②乗法を英語で行うことができた。

- 十分 . . . 84. 8%
- まあまあ . . . 11. 0%
- 不十分 . . . 5. 5%

<成果と課題>

①成果

- ・ 生徒の実態をレディネステストを通して把握することで、基礎・基本の定着を図る指導の手立てを具体的にすることができた。また、一人一人のつまづきを予想し、的確な支援をすることができた。
- ・ 教科書を重視した指導過程を仕組んだことにより、聞く・話す・読む・書くの4領域をバランスよく配置することができた。
- ・ 学校においてケンブリッジ英検の実施や英字新聞を活用した掲示物、英語学習室の整備など、生徒が授業以外でも英語に触れる機会を作ったことで、生徒の英語への興味・関心を高めることができた。
- ・ オールイングリッシュデイの実施によって、英語の授業で身に付けた力を実際に運用する場をつくることができ、生徒が英語を使用する自信と学習への新たな意欲をもつことができた。

②課題

- ・ 生徒の実態を具体的に把握し、評価規準の実現のために細かい手立ての用意によって、誰もが確実に表現活動に取り組むなど基礎・基本の定着を図ることができたが、生徒のより高まろうとする意欲を伸ばすことができなかった。
- ・ 高校でより英語の実践的コミュニケーション能力を伸ばすために、さらに確かな英語力を身に付けさせる必要がある。授業時間だけでなく授業内容と関連した家庭学習の在り方を検討する。



生徒の感想より

- ・ 今までに習った英語を生かして、英語で問題を出し合うことができて楽しかった。
- ・ 分かりやすかった。数字を言うだけでなくじゃんけんなどを取り入れ、楽しく計算ができた。
- ・ すごくおもしろくてこんな使い方、言葉、言い方があるのだとか、知って楽しいことばかりで、もっとやりたいです。
- ・ +, -, ×, ÷の英語版を学んで、少し難しかったけれど、考えるのが楽しかったなと思いました。×, ÷の英語版ははじめて知ったのでうれしかった。